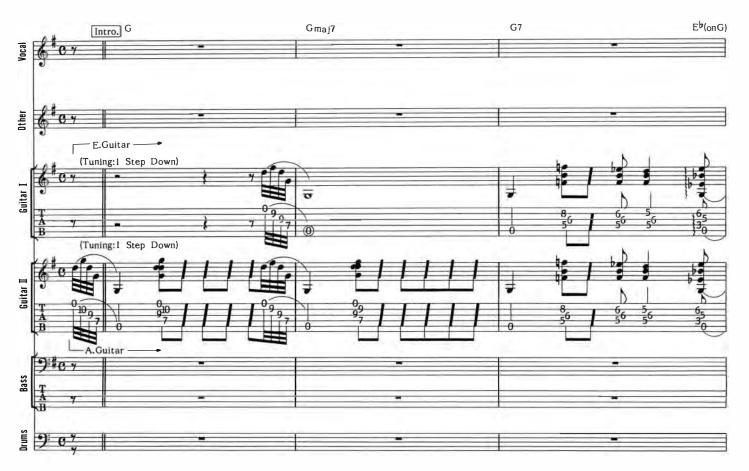
THE RAIN SONG

ノイン・ソング

Words & Music by Jimmy Page and Robert Plant

美しいギターにロマンチックなメロトロン、そこにパワフルなドラムが加わるといった、実にツェッペリンらしいバラードのこの曲。いちばんの注意点は、ギターのチューニング。E.ギター、A ギターともに、全弦を1音下げてプレイされている(つまり1弦から順に言うとD、A、F、C、G、D音となっている)。ひとりでプレイする分には特に支障はないが、レコードと合わせたり、キーボードと一緒にプレイするときには、ノーマル・チューニングでは全然合わないので注意しよう。さてこの曲のポイントは、A.ギターとメロトロンの2点につきる。A.ギターは、開放弦の響きをうまく利用し、美しいハーモニーを生み出している点に注目

したい。イントロ1~2小節目、6~9小節目など、1弦の開放音が絶えず鳴っており、それがサウンドをリッチにしているわけだ。ライヴでひとりでプレイするときには、基本的にはA.ギターのパートをやればいいが、回などE.ギターが重要なメロディをプレイする筒所もあるので、そういったところはE.ギターのパートをおりまぜつつやればいいだろう。次にメロトロン。シンセのストリングス音を使う場合には、なるべくメロトロンばい音色(ちょっとザラついてピッチも多少ゆれる、みたいな)を選びたい。またヴォリューム・ペダルを使い、抑揚をつけてプレイすることも大事だ。レコードをよく聴いてニュアンスをつかんでほしい。

















































A♭9 G9

4 I







